

**XN-0823 リアルタイムオクターブ解析ソフト  
オールパス（オーバーオール）のトレンド測定の方法**

---

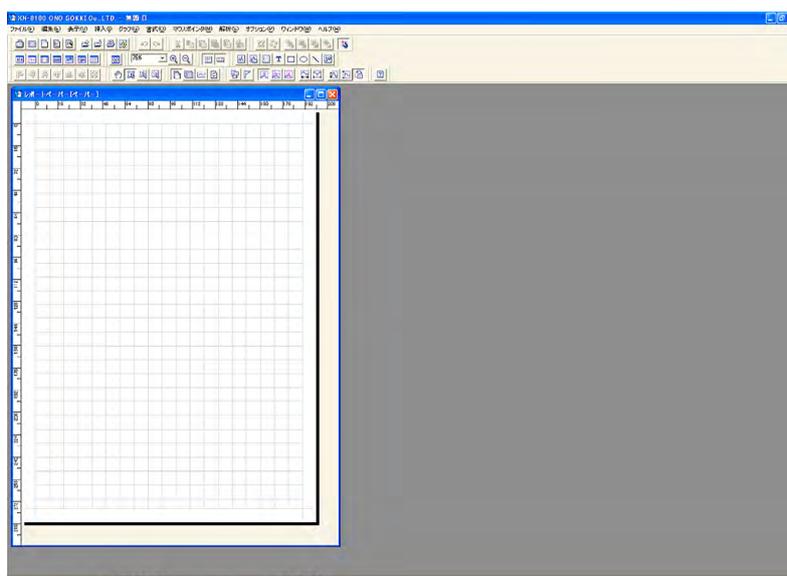
# XN-0823 リアルタイムオクターブ解析ソフト

## オールパス（オーバーオール）のトレンド測定の方法

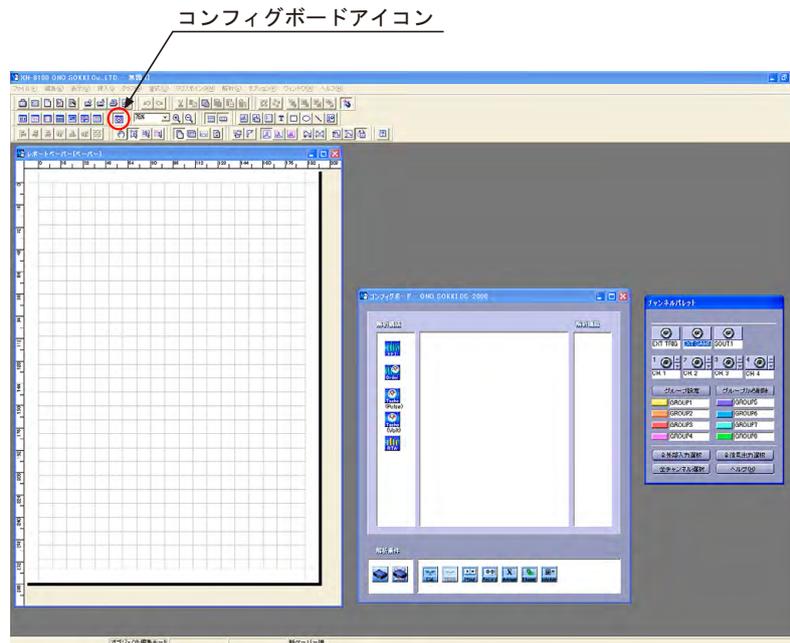
1/1 或いは 1/3 オクターブ分析したオールパスや特定のバンドレベルが時系列でどのように変化するかを測定するには、グラフ表示のトレンド機能を使用します。この測定には XN-0823 リアルタイムオクターブ解析ソフトが必要になります。ここでは、Ch1 に騒音計を接続しオールパスのトレンド測定を例にとり、手順を説明します。

### ■操作手順

1. XN-8000 を開きます。



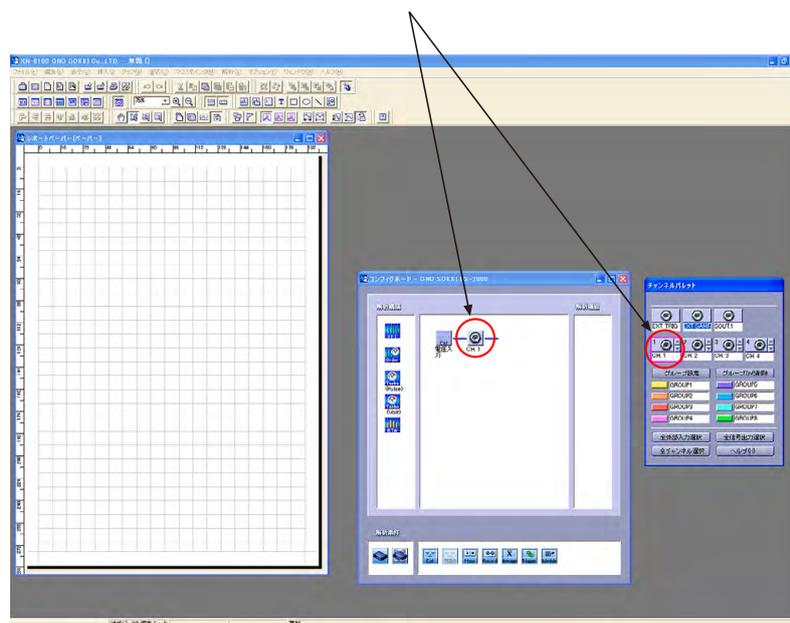
2. 「コンフィグボード」アイコンをクリックしコンフィグボードを開きます。



### 3. コンフィグボードの構成

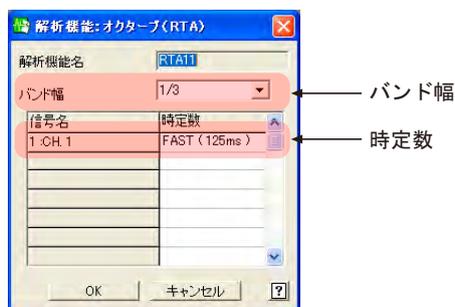
- 1. チャンネルパレットの「ch1」をクリックします。コンフィグボードに ch1 アイコンが表示されます。

チャンネルパレットの「ch1」をクリックすると、  
コンフィグボードに CH 1 アイコンが表示されます。



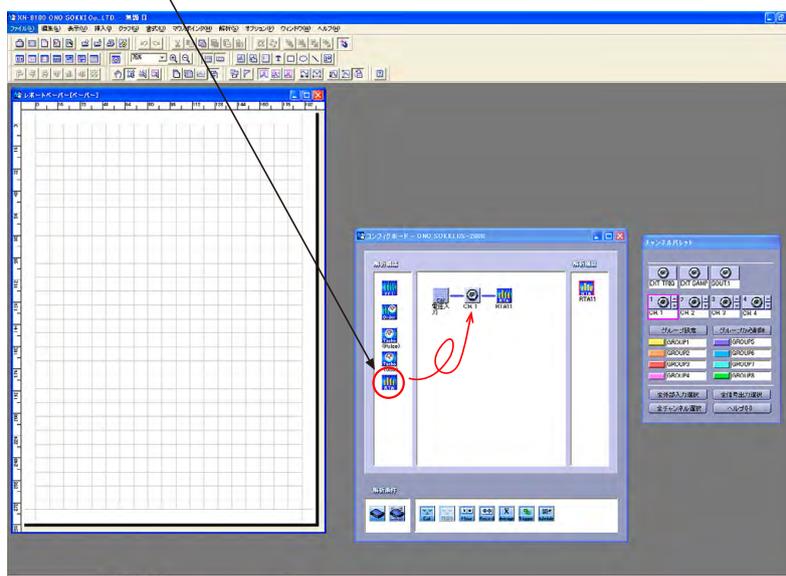
- 2. コンフィグボード「RTA」アイコンをコンフィグボードの「ch1」アイコンに接続するようにドラッグします。自動的に「解析機能：オクターブ (RTA)」ダイアログが開きます。ここでは次のように設定し、OK をクリックします。

|      |      |
|------|------|
| バンド幅 | 1/3  |
| 時定数  | FAST |



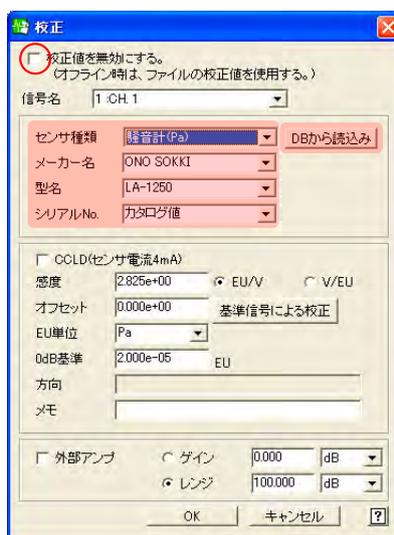
OK をクリックすると、コンフィグボードには ch1 に RTA アイコン接続された図が表示されます。

「RTA」アイコンを CH1 アイコンにドラッグすると「解析機能」設定ダイアログが開きます。設定後 OK をクリックすると RTA アイコンが表示されます。

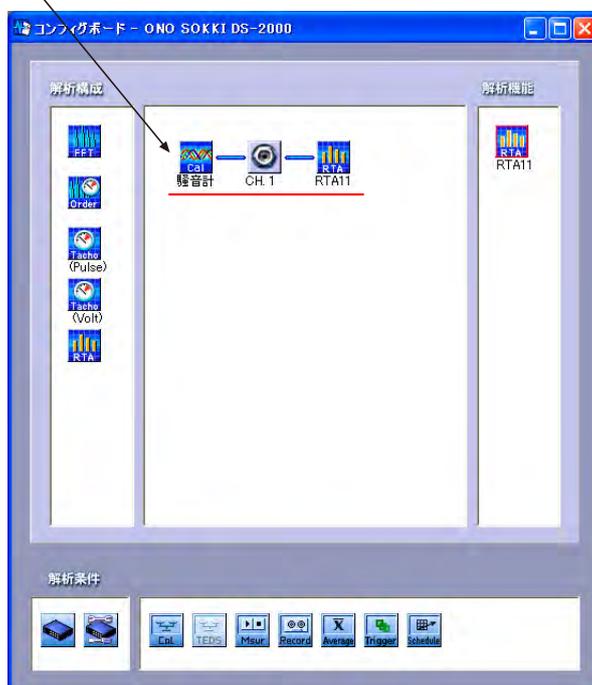


#### 4. 単位校正

コンフィグボードの「電圧入力」アイコンをクリックすると「校正」ダイアログが開きます。ここでは下図のように「校正値を無効にする」のチェックをはずし、「DBから読み込み」をクリックし、当社騒音計「LA1250」を選択しています。コンフィグボードアイコンの電圧入力文字が「騒音計」アイコンに変わります。



コンフィグボードの図は、騒音計が ch1 につながれ、解析を RTA で行うというシステム構成を示しています。

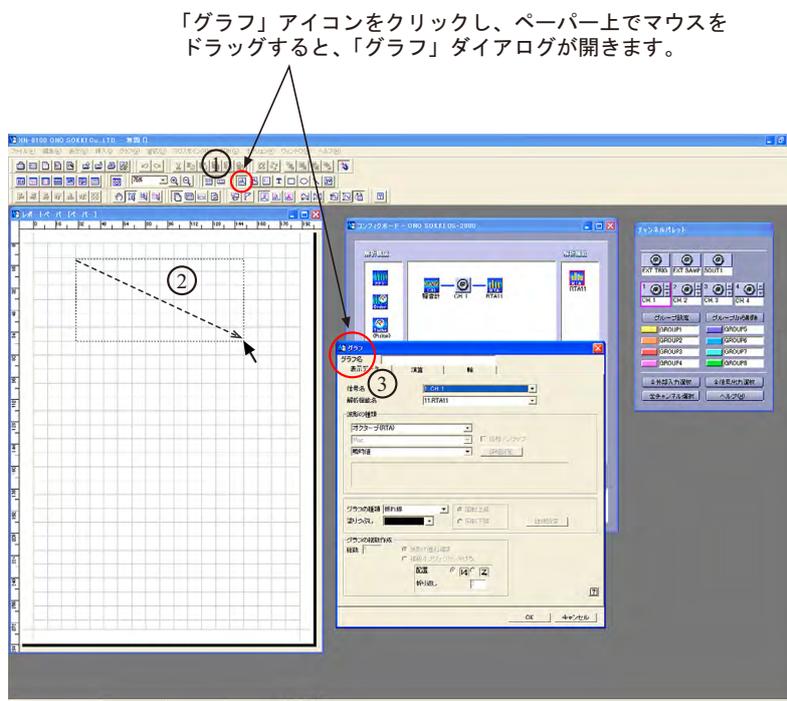


音響校正器を使った場合は次項を参照ください。

●音響校正器を使用した騒音計との校正方法は  
[http://www.onosokki.co.jp/HP-WK/c\\_support/faq/xn8000/xn8000\\_9.htm](http://www.onosokki.co.jp/HP-WK/c_support/faq/xn8000/xn8000_9.htm)

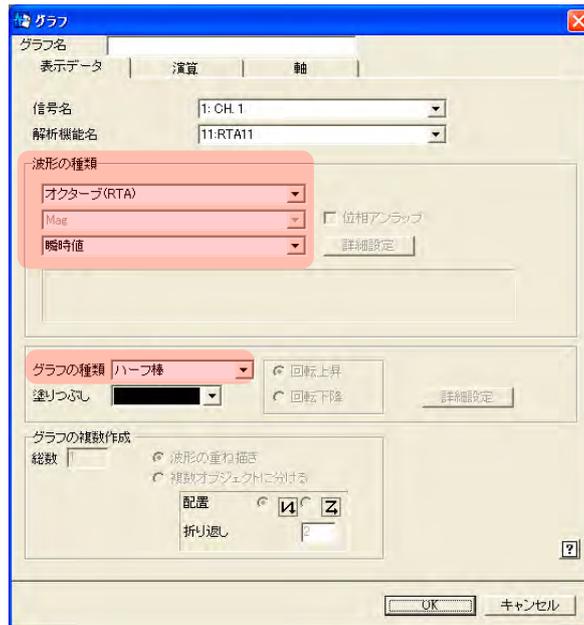
5. 1/3oct グラフの表示

- 1. 「グラフ」アイコンをクリックし、レポートペーパー上に描きたいグラフの大きさにマウスをドラッグします。点線枠が表示され、「グラフ」ダイアログが開きます。

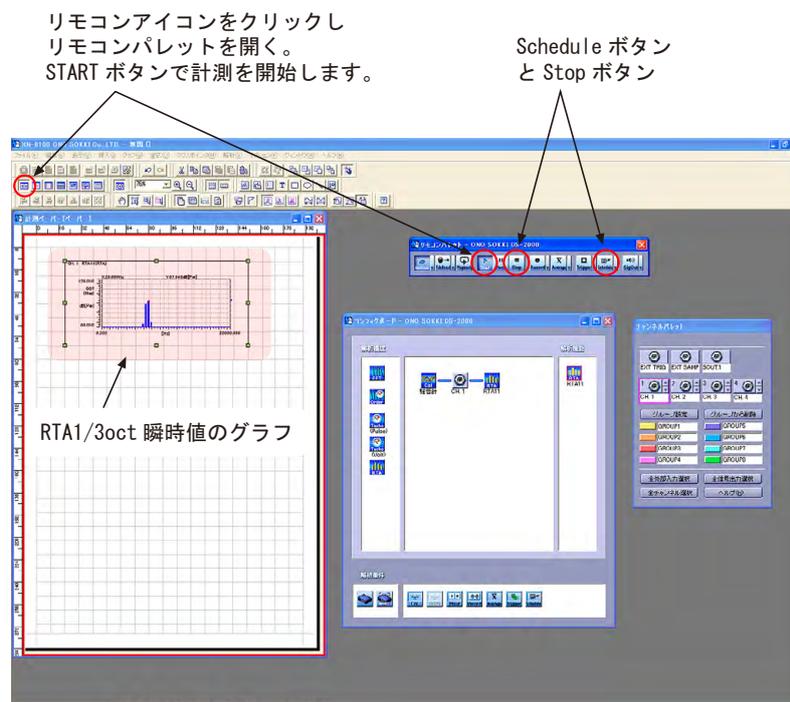


- 2. 「グラフ」ダイアログを次図の様に設定します。

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 波形の種類  | オクターブ (RTA)、瞬時値 |
| グラフの種類 | ハーフ棒            |



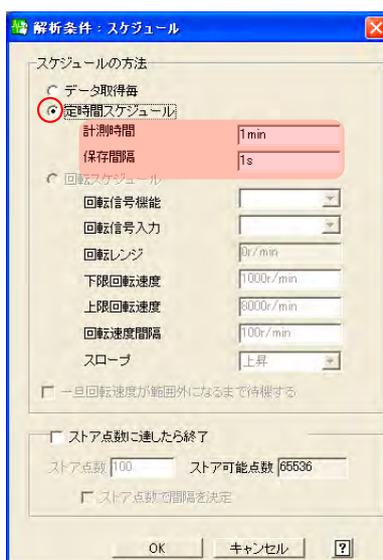
- 3. 「リモコン」アイコンをクリックしリモコンパレットを表示します。
- 4. Start ボタンを ON にし、1/3 oct の測定表示を行います。



## 6. スケジュール機能による測定

- 1. リモコンパレットの「Stop」ボタンを押します。
- 2. 同「Schedule▼」ボタンをクリックし、「スケジュール」ダイアログを開きます。  
ここでは「1s 間隔で 60 s 間測定を繰り返す」設定を行うこととし、次のように設定します。

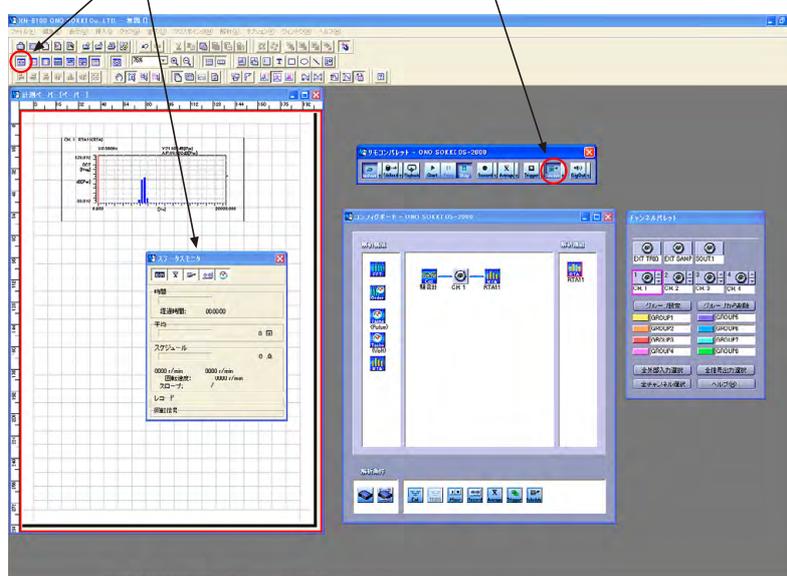
|           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 定時間スケジュール | チェック ON                  |
| 計測時間      | 60s(自動的に 1min と表示が変わります) |
| 保存間隔      | 1s                       |



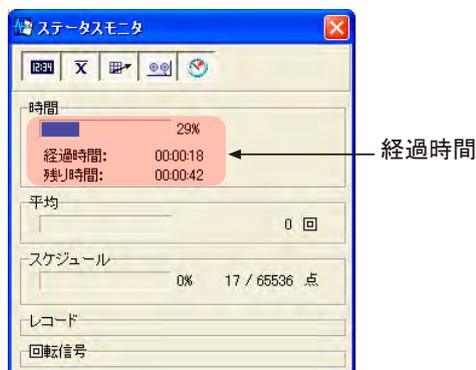
- 3. 「ステータス」アイコンをクリックし、ステータスマonitorを表示します。
- 4. 「Schedule」ボタンを ON にします。

ステータスアイコンをクリックし  
ステータスマonitorを開きます。

Schedule ボタンを on にします



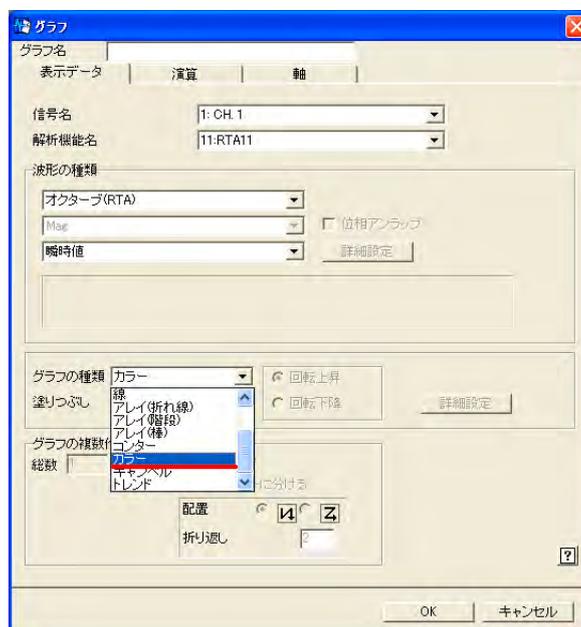
- 5. リモコンパレットの「Start」ボタンをクリックします。スケジュールに従い測定が行われます。ステータスマニターに測定経過が表示されます。100%に達すると自動で Stop します。途中で停止したい場合は「Stop」ボタンを ON にします。



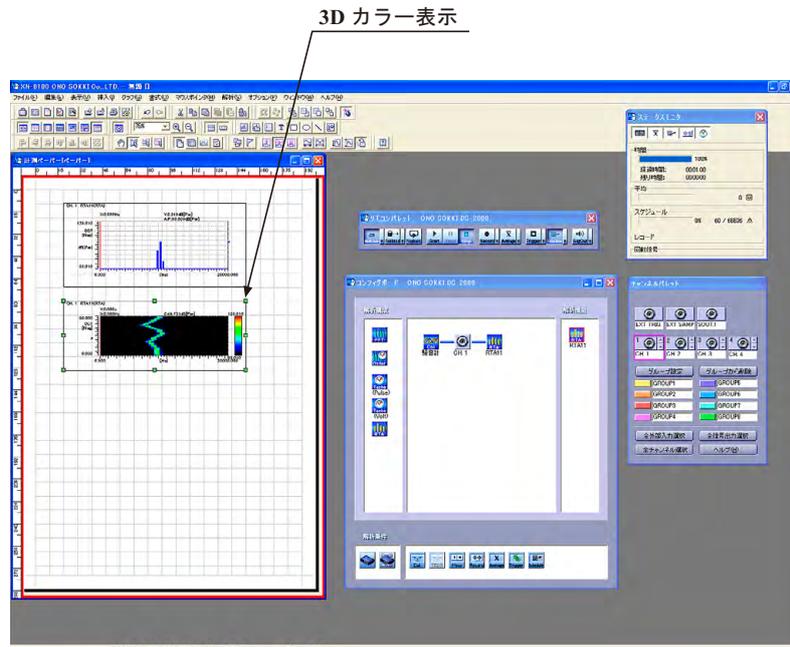
## 7. 測定データのカラー表示

- 1. 操作手順 5 の操作と同様、「グラフ」アイコンをクリックし、計測ペーパーに描きたい大きさにマウスをドラッグします。「グラフ」ダイアログが開きますので、「グラフ」ダイアログを次のように設定します。

| グラフの種類 | カラー |
|--------|-----|
|--------|-----|



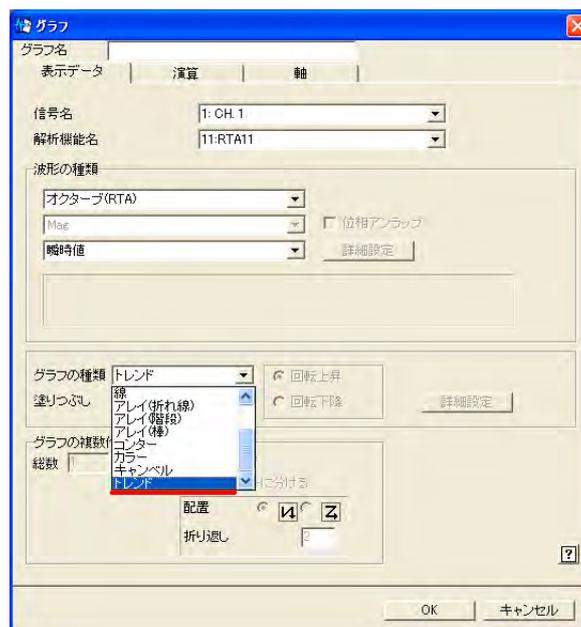
- 2. OKをクリックすると、次図のようにSheduleで測定したデータが3Dカラーで表示されます。



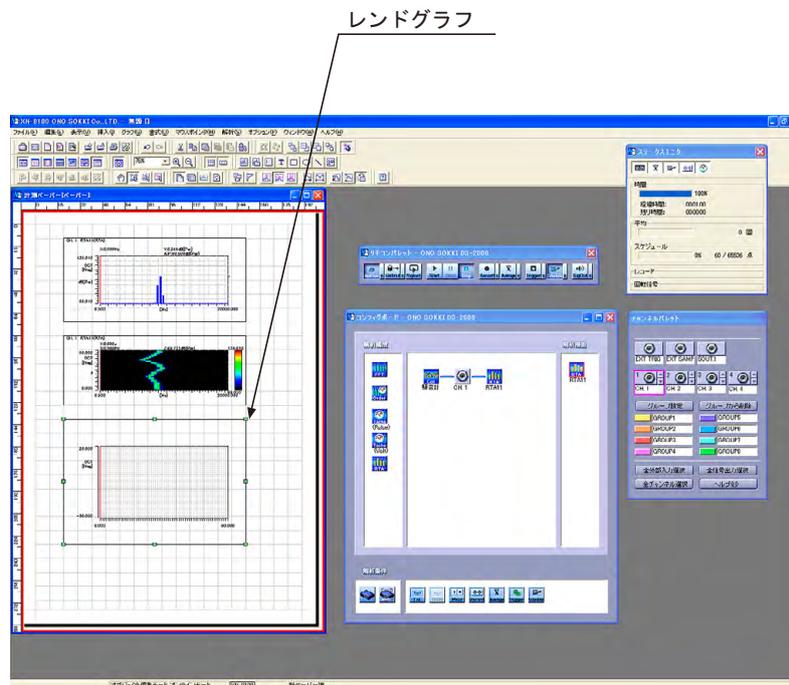
8. トレンドグラフを表示する

- 1. 操作手順 5 の操作と同様に、「グラフ」アイコンをクリックし、計測ペーパーに描きたい大きさにマウスをドラッグします。「グラフ」ダイアログが開きますので、「グラフ」ダイアログを次のように設定します。

|        |      |
|--------|------|
| グラフの種類 | トレンド |
|--------|------|

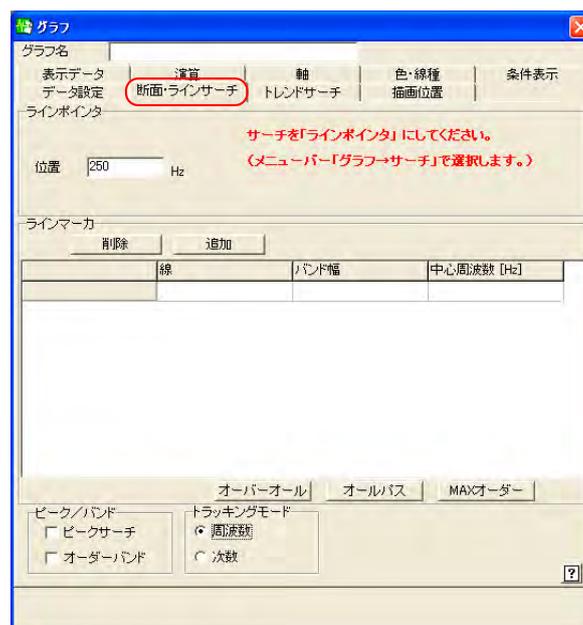


- 2. OK をクリックすると次図のようにトレンドグラフが表示されます。なお、トレンド表示したいバンドの設定がまだのため、データは表示されません。

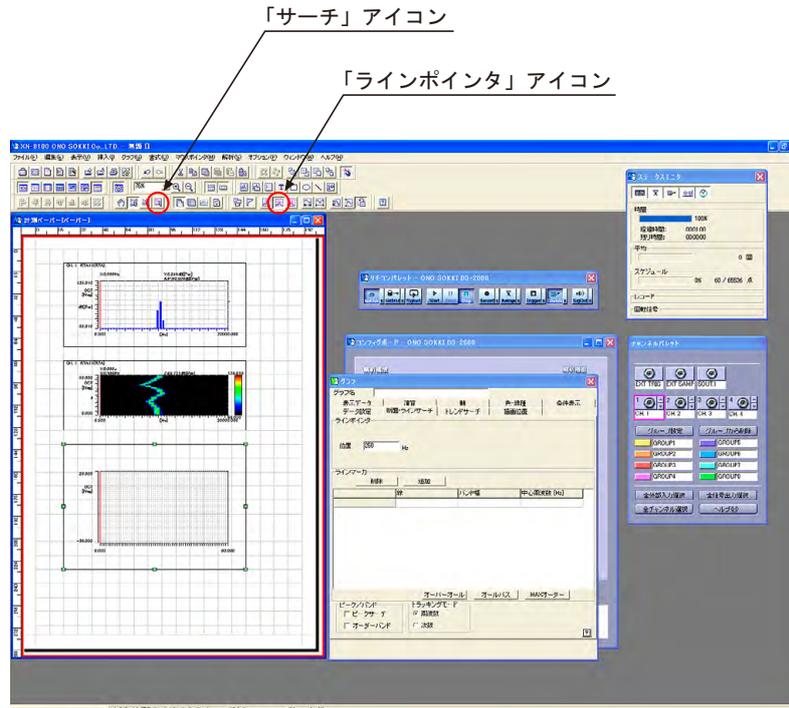


- 3. トレンドグラフにマウスを当て右クリックし、プルダウンメニューの「グラフ設定 (1)」をクリックします。「グラフ」ダイアログが開きます。「断面・ラインサーチ」タブをクリックします。

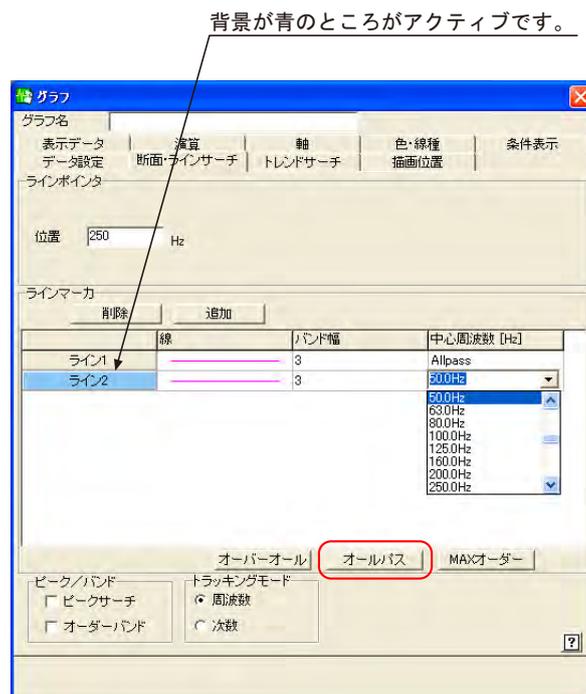
ダイアログに“サーチを「ラインポインタ」にしてください。”のメッセージが表示されます。



4. 「ラインポインタ」アイコンをONにします。

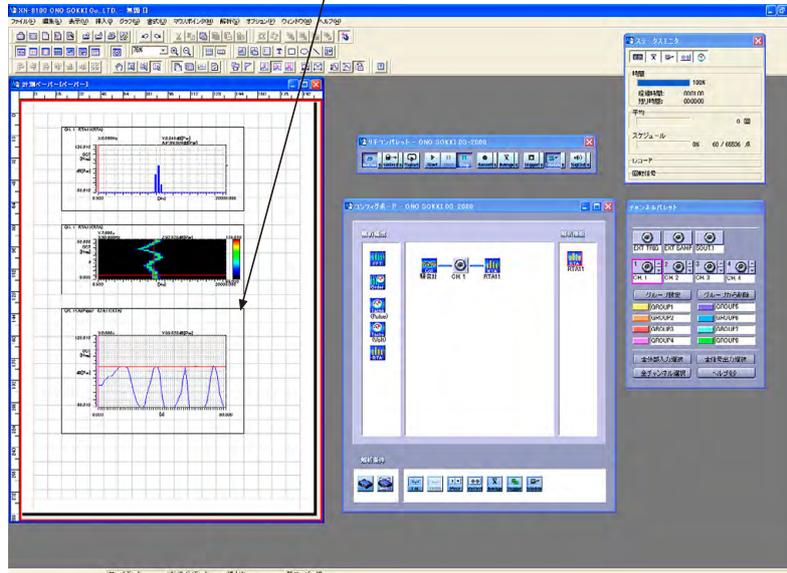


5. ダイアログの「追加」ボタンをクリックすると、次図のように「ライン 1、バンド幅 3、250 (Hz)」が表示されます。バンド幅設定値はオクターブ解析では無視されます。なお、「ライン1」の背景が青になっています。背景が青のところはアクティブです。
6. 「オールパス」ボタンをクリックするとアクティブの位置の周波数が 250 ⇒ Allpass に変わります。同様に「追加」ボタンでライン2を設定します。周波数は 50Hz などに変更可能です。



次図は ALLpass と 50Hz のトレンドグラフを表示しています。

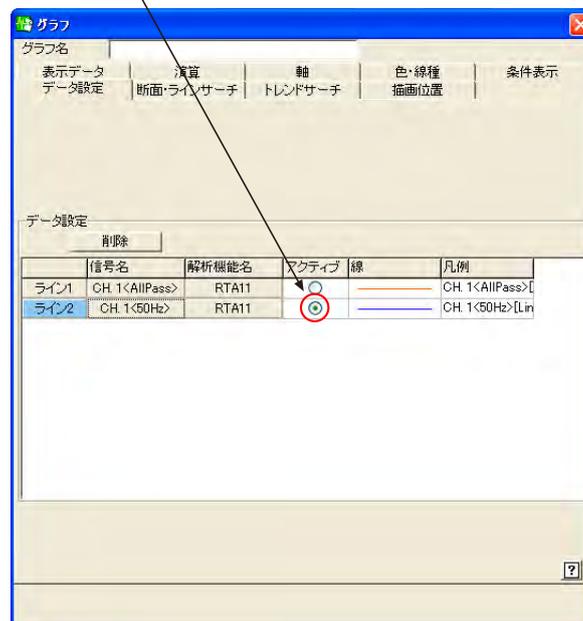
赤：Allpass と青：50Hz バンドのトレンド表示



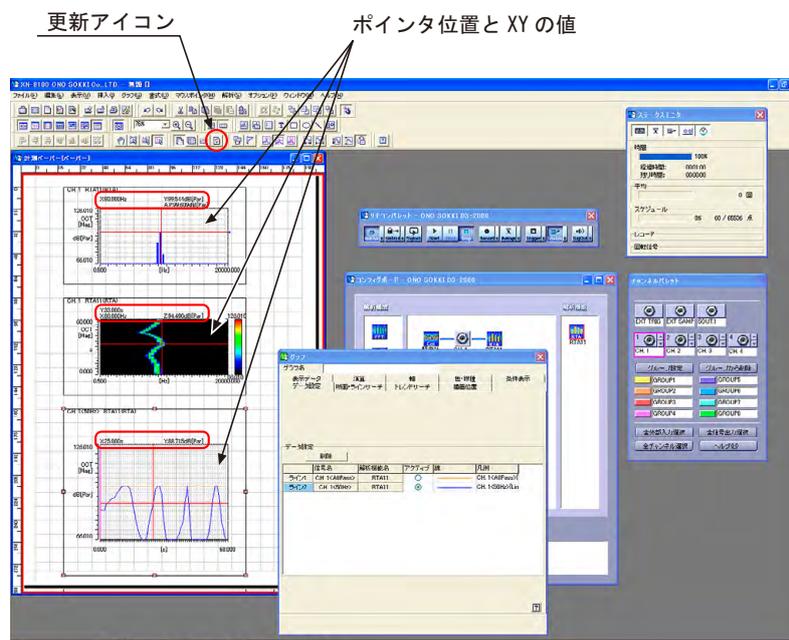
### 9. サーチ点の値を読む

「サーチ」アイコン（操作手順 8-4 の図参照）を ON にし、グラフの任意位置をマウスでクリックすると赤のポインタが表示され、アクティブなラインの XY の値が表示されます。アクティブなラインの変更はグラフダイアログの「データ設定」タブで行います。

ポインタで表示したいアクティブなラインを選択します。



下図は、グラフのサイズや Allpass の線色、フォントを修正しています。



- 再度スケジュールによる測定を行うには、「Schadule」ボタンが ON の状態で「Start」ボタンをクリックします。それぞれのグラフに測定データが表示されます。

「更新」アイコン（操作手順 9 の図参照）が OFF の場合、測定終了ごとにレポートペーパーが作成されます。レポートペーパーが不要の場合は「更新」アイコンは ON にしておきます。

「スケジュール」ダイアログの設定を変更して測定したとき、X 軸、Y 軸のスケールが大きく変わる場合は、測定終了後に各々のグラフの「グラフ」ダイアログを開き「軸」タブの軸スケールの変更を行ってください。

